

教科名	国語	科目名	国語	単位数	5
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 国語を学びながら、確かな知識と他者を理解する力、自身の意見を他者に伝える力を養う。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。 ③ 国語を学ぶことに興味関心と意欲を持ち、その力を他者や外部にむけて発信出来るようになる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	新しい国語1・2（東京書籍） キーワードの卵（尚文） 中1徹底演習テキスト（受験研究社） 中学書写（学図） 自作テキスト など				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	国語の基礎 文法・単語 文章の読み方 国語・漢和辞典の使い方	文章を論理的に読解できるように、 国語の基本である、単語・文法・ 文の構造・主述の関係などを学ぶ。 国語辞典・漢和辞典等の効果的な 利用方法を学ぶ。	15	10	「ニュースの見方を考えよう」 「『常識』は変化する」 復習及び発展内容	筆者の主張を理解し、情報を的確に読み取る。 客観的な事実と、その事実に基づく筆者の主張を読み取り、明確に区別できるようにする。	20
5	「話し方はどうか」 「さんちき」	話すときの適切な速度や表情について理解し、音読する。また、抽象・具体など、文章を読むための基本ルールを学ぶ。 文章の展開を理解し、主題を考える。読み取った内容を踏まえ、心情の変化をとらえる。	20	11	「集まって住む」 復習及び発展内容	筆者の独特の表現を理解し、絵や写真の内容を文章の形で自分で表現できるようにする。	20
6	「詩の心」「小さな発見を詩にしよう」 「飛べ、かもめ」 古文の基本 「さまざまな古典作品を知ろう」 「伊曾保物語」 「竹取物語」	様々な表現の仕方を学び、自分の表現する幅を広げる。 語句や歴史的仮名遣いに注意し、古文のリズムを感じながら音読し、古文に親しむ。	20	12	「字のない葉書」 復習及び発展内容	登場人物のものの見方や考え方について理解し、自分の考えを持つ。	15
7	「碑」 「質問しよう」 「会話が弾む質問をしよう」	戦争の悲惨さや当時の状況を学び、自分の考えを深める。また、文章を正確に読み取る力を養う。 表現力、伝える力を養う。最終的には、皆の前で発表できるようにする。	15	1	復習及び発展内容 「メッセージをどう聞かか」	筆者の主張を的確にとらえ、目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解する。	15
8	復習及び発展内容		5	2	「方言と共通語」 「方言のクッション」 古文の復習 「徒然草」 「枕草子」	必要な情報を集めて処理し、自分の考えを伝える。 「枕草子」「徒然草」の学習を通して、当時のものの考え方や社会状況を理解する。歴史的仮名遣いを復習する。用言を中心に文法事項を理解する。	20
9	「オオカミを見る目」 「私のタンポポ研究」 「漢文に親しむ」 「矛盾」	段落の役割や、段落同士の関係に着目して文章の構成を捉え、内容を理解する。 漢文を読むための基本となる返り点などを学び、漢文に親しむ。	20	3	「根拠を挙げて考えを述べる」 「話し合いで理解を深めよう」 1年間の復習及び発展内容	表現力、伝える力を養う。最終的には、ディベート等を通して、実践する。 1年間の復習及び、発展内容を学習する。	15

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。

・適宜、書写の授業を行う。

教科名	社会	科目名	地理	単位数	4
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 日本や世界の地理的な事象に対する関心を高める。 ② 各地域の地理的事象を位置や空間的な広がりから捉えるための視点や方法を身につける。 ③ 日本や世界の諸地域との相互関係や地域的特性、共通性に着目し、諸事象が変容していることを理解する。 ④ グラフ・地図の読み取り技能を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…定期考査、ワークシート、振り返りシートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…ワークシートや課題提出物などをもとに評価する。				
学習方法	① 地球儀や地図を多用し、地球的規模で世界の各地域の位置関係やそれぞれの産業を理解させ、各地域の特色や違いについて地理的な関心を深める。 ② 統計資料や、地勢図などの資料読解を通し、各地域の特徴を地理的にまとめたり発表したりする方法を養う。				
教科書・教材等	新しい社会地理（東京書籍） 新編中学校社会地図（帝国書院） ワーク地理Ⅰ（エデュケーショナルネットワーク） ワーク地理Ⅱ（エデュケーショナルネットワーク）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	1 世界のすがた ①地球のすがた ②世界のすがたとさまざまな地域 ③地球上の位置	地図と地球儀の違いや地図の種類と世界の国々の位置を理解する。 地図を見たり、写真を見たりしながら特に五感を使い、徐々に地理学習の視点や方法を身につける。	15	10	4 日本の様々な地域 ①地域調査の手法 ・地形図 ・文献、資料調査 ②都道府県と地方区分	日本の様々な地域を学ぶにあたり、資料の読み方、地形図の読図という技能を習得する。	20
	5 ④国々の国名と位置 ⑤世界の地域構成 日本の地域構成	世界各国の位置を地図帳を使って確認しながらそれぞれの国の形や大きさを理解する。 世界の地域構成・日本の地域構成を理解しながら、時差のしくみや領域・領土についても理解する。			5 世界から見た日本のすがた ①日本の自然環境の特色 ・世界の地形 ・日本の地形 ・世界の気候 ・日本の気候 ・自然災害	世界から見た日本という観点で、日本の自然環境を学習しそれぞれの地域の特色を理解する。世界の自然環境にも目を向け、地域の特色ある自然に気付く。 世界の気温や降水量を見ながら、それぞれの気候の特色とそれをもたらす要因に気付くことによって地域差があることを理解する。	
6	2 世界各地の人々の生活と環境 ①雪や氷の中の人々～常夏で暮らす人々 ②低い土地・山に暮らす人々 ③世界の気候区分 ④人々の生活に根付く宗教	世界各地の人々の生活を、写真や資料を使いながら、その違いを理解する。 世界の地域の気候を学びながら、地域の気温や降水量の違いに気付き、各地域の生活に気候が深く関わっていることを理解する。	20	12	②世界と日本の人口 ・世界の人口 ・日本の人口 ・日本の過疎と過密 ③世界と日本の資源 ・世界の資源 ・世界の産業 ・日本の産業	世界人口の推移を見て、日本の人口の推移のあり方を考える。 世界の資源の生産地を見ながら、それぞれの資源の偏在性に気付き、産業の立地や特徴、課題を理解する。	15
	7 3 世界の諸地域 ①アジア州 ②ヨーロッパ州	世界の諸地域の国々の産業や自然をつかみながら、マクロ的に且つミクロ的に地理観を身に付ける。各州の特色を、白地図を使いながら意識的に国の特色をつかむ。			④世界と日本の結びつき ・世界のグローバル化 ・日本各地を結ぶ交通と通信 ・貿易	世界の交通を見ながら地域間の広がりを学習する。また時間距離が短くなったことに気付く。	
8	③アフリカ州	世界の諸地域の国々の産業や自然をつかみながら、マクロ的に且つミクロ的に地理観を身に付ける。各州の特色を、地図帳を使いながら意識的に国の特色をつかむ。	5	2	6 日本の諸地域 ①九州地方 ②中国四国地方 ③近畿地方 ④中部地方 ⑤関東地方 ⑥東北地方 ⑦北海道地方	日本の諸地域を都道府県という小世界の自然や産業を通して、それぞれの都道府県の特色をつかみ、地理的な思考を身に付ける。 日本をいろいろな角度から見ることで、違った日本に気付く。	20
9	④北アメリカ州 ⑤南アメリカ州 ⑥オセアニア州	世界の諸地域の国々の産業や自然をつかみながら、マクロ的に且つミクロ的に地理観を身に付ける。各州の特色を、地図帳を使いながら意識的に国の特色をつかむ。	20	3	7 地域のあり方	身近な地域における課題を把握し、調べ学習を通して解決策などを提案できるようにする。	15

備考

教科名	社会	科目名	地域社会	単位数	1		
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 各種データを収集し、現状を把握できる。 ② 複数のデータを照らし合わせ、現状を分析できる。 ③ さらに調査・研究を行い、問題点について原因を究明できる。 ④ 成果をまとめて、分かりやすく発表できる。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…定期考査、ワークシート、授業内の発表などをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…ワークシートや課題提出物などをもとに評価する。						
学習方法	① 鳥取県の各種データを収集する。 ② 時系列比較や他県比較を行い、類似点や相違点を列挙する。 ③ 各自の調査テーマによるまとめを行い、原因究明した結果を発表する。						
教科書・教材等	学校作成プリント、地元新聞など						
年 間 授 業 計 画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	データを分析する練習	社会科の問題を利用し、複数のデータから仮説を導き出す練習を行う。	3	10	データ分析	各自の調査テーマ（交通条件・気候条件・産業構造など）による研究を行い、鳥取県の現状に対する原因究明を行う。	4
5			4	11			4
6	データを分析する練習	他人が導き出した仮説に対して、論理の破綻が無いか考え、質問をすることで自身の思考力を洗練していく。	4	12	発表と振り返り	鳥取県についての分析・原因究明のまとめを発表する。ここでも聞く者は批判的視点を意識し、質問する。 生徒からの質問のほかに、教員からフィードバックを行い、次につなげる。	3
7	仮説の裏付けをする	自身の仮説を裏付けるデータを探し、発表する。ここでも他者の発表が正しいのかを批判的に聞き、質問する。	3	1	分析	2学期の振り返りを受けて、再度研究に取り組む。	3
8			1	2			4
9	鳥取県についてのデータを収集する。	タブレット端末等の使用法、効果的な検索ワード、有用なサイトなどを共有する。 あわせて過去のデータや他県のデータも収集し、時系列比較・他県比較を行い、鳥取県の現状を分析する。	4	3			3
備考							

教科名	数学	科目名	代数	単位数	4
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 日常の事象(や社会の現象)を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を育てる。 ② 数学の事象から(見通しをもって)問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的、発展的に考察する力を育てる。 ③ 数学的な表現を用いて筋道を立てて(論理的に)説明し伝え合う力をつける。				
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価 ①②が7割程度、③が3割程度、10段階評価				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、必ず予習をする。授業の進度はやや速く、演習と復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 放課後に演習問題、質問などに応じる。習熟が不十分の場合は放課後補習をする。個別の添削を行う。 ③ 宿題プリントはその日のうちに、丸付け、間違いのやり直しをして、提出日を守って提出する。				
教科書・教材等	改訂版体系数学1 代数編(数研出版)、体系問題集 数学1 代数編 標準(数研出版) 未来へひろがる 数学1、2(啓林館)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 正の数と負の数 1. 正の数と負の数 2. 加法と減法	数の範囲を拡張し、正の数・負の数の意味を理解する。 正の数・負の数の加法と減法の意味を理解し、その計算ができる。	12	10	5. 連立方程式の利用	文章を数式にすることが容易になることを利用し、いろいろな場面で活用することができる。	16
	5	3. 乗法と除法 4. 四則の混じった計算			正の数・負の数の乗法と除法の意味を理解し、その計算ができる。 数の範囲と四則計算の可能性について考え、身近な事象を負の数を用いて表現し、処理することができる。	2. 比例とそのグラフ 3. 反比例とそのグラフ 4. 比例、反比例の利用	
6		第2章 式の計算 1. 文字式 2. 多項式の計算 3. 単項式の乗法と除法 4. 式の値 5. 文字式の利用	いろいろな数量の関係や法則などを、文字を用いて一般的かつ簡潔に表現するよさを理解する。 文字式を書くときの約束に従ったり、1次式の加法や減法、単項式の乗法と除法の計算ができる。 文字式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解し、数量の関係や規則性を文字を用いて一般的に説明することができる。	16	12	5. 1次関数とそのグラフ 6. 1次関数と方程式	1次関数の特徴を理解し、1次関数のグラフがかけたり、直線が与えられているとき、その直線の式が求められる。 1次関数のグラフと2元1次方程式のグラフとの関係や、連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。 具体的な事象を1次関数とみなし、それを問題解決に利用する。
	7	第3章 方程式 1. 方程式とその解 2. 1次方程式の解き方	方程式とその意味、方程式を解くことの意味を理解し、等式の性質を使って、簡単な方程式を解くことができる。 移項の意味を理解し、移項によって方程式を解くことができる。 また、方程式を解く手順をまとめ、いろいろな方程式を解くことができる。			12	1
8		3. 1次方程式の利用 4. 連立方程式	日常生活や事象から条件を読みとり、式として表現し、その式を処理し、解決することができる。 連立方程式とその意味、連立方程式を解くことの意味を理解し、連立方程式を解くことができる。	4	2		
	9					16	3

備考

教科名	数学	分野名	幾何	単位数	3
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 図形に関する基礎的な概念の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。 ② 事象を数理的に考察する能力を高める。 ③ 数学的活動の楽しさ、数学的な見方・考え方のよさを知り、それらを積極的に活用する態度を育てる。 ④ 発展的内容を積極的に取り入れると同時に、中学1年生として身につけておくべき内容を徹底して習得する。				
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価 ①②が7割程度、③が3割程度、10段階評価				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、必ず予習をする。演習と復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 放課後に演習問題、質問などに応じる。習熟が不十分の場合は放課後補習をする。個別の添削を行う。 ③ 宿題プリントはその日のうちに、丸付け、間違いのやり直しをして、提出日を守って提出する。				
教科書・教材等	改訂版体系数学1 幾何編（数研出版）、体系問題集数学1 幾何編 標準（数研出版） 未来へひろがる数学1、2（啓林館）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 平面図形 1. 平面図形の基礎 2. 対称な図形 3. 図形の移動 3. 図形の移動	図形を学ぶ上で必要不可欠な「直線」や「点」などの用語を学ぶ。「線対称」と「点対称」、「回転移動」や「平行移動」の考え方を学ぶ。	9	10	第3章 図形と合同 1. 平行線と角 2. 多角形の内角と外角	平行線の性質、多角形の内角と外角の性質を理解し、図形の証明の基礎を身につける。	12
	4. 作図	基本的な作図を習得することにより、図形についての見方・考え方を身につける。	12	11	3. 三角形の合同条件 4. 証明の進め方	三角形の合同条件を導き、それを利用して三角形の合同を証明できるようにする。 基本的な証明の組み立て方を学び、筋道を立てて考える態度、表現する技能を身につける。	12
	5. 面積と長さ	四角形や円の面積、周の長さの計算などを学ぶ。補助線を用いる必要がある複雑な図形の面積、長さの計算を学ぶ。	12	12	第4章 三角形と四角形 1. 二等辺三角形	二等辺三角形の性質を学び、それらが既習の定理を用いて証明できることを学ぶ。	9
7	第2章 空間図形 1. いろいろな立体 2. 空間における平面と直線 3. 立体のいろいろな見方	様々な立体の名前と特徴を理解する。平面と直線、2平面の位置関係などを理解する。 面が動いてできる立体、立体の切断、投影図、展開図など立体のいろいろな見方を学ぶ。	9	1	2. 直角三角形の合同	直角三角形の合同条件を学び、それを使って証明に応用できるようにする。	9
8	問題演習		3	2	3. 平行四辺形	平行四辺形の定義や性質を理解し、性質を証明することができるようにする。 平行四辺形にどのような条件を付け加えることで長方形・ひし形・正方形となるのかを考える。	12
9	4. 立体の表面積と体積	平面図形の面積計算を利用した立体の表面積、側面積、体積の計算の方法を習得する。	12	3	4. 平行線と面積	平行線と面積の関係を利用し、面積を変えずに境界を改める方法を考える。	9
				3	5. 三角形の辺と角	三角形の辺と角の大小関係を利用して問題を解くことができる。	

備考

教科名	理科	科目名	中学理科	単位数	3
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するための技能を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	未来へひろがるサイエンス1（啓林館）・未来へひろがるサイエンス2（啓林館） 中学の理科-物理・化学-（教育開発出版）・中学の理科-生物・地学-（教育開発出版）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数	
4	生命編① ・自然の中にあふれる生命 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類	・ルーペの使い方を学ぶ。 ・顕微鏡の使い方を学ぶ。 ・花のつくりとはたらきを学ぶ。 ・子葉・葉・根のつくりとはたらきを学ぶ。 ・植物の分類について学ぶ。 ・脊椎動物、無脊椎動物の生活やからだのつくりを学ぶ。 ・動物の分類について学ぶ。	9	10	・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化	・いろいろな気体の性質を学ぶ。 ・物質が水に溶ける現象のしくみを学ぶ。 ・質量パーセント濃度の計算について学ぶ。 ・状態変化について学ぶ。 ・混合物の分離方法を学ぶ。	12	
5	生命編② ・生物のからだをつくるものはたらき ・植物のからだのつくりとはたらき ・動物のからだのつくりとはたらき	・動物細胞と植物細胞の違いを学ぶ。 ・光合成と呼吸について学ぶ。 ・栄養分はどのように体内に取り入れられているかを学ぶ。 ・血液がどのように流れているのかを学ぶ。 ・刺激を受けとってから、反応するまでのしくみを学ぶ。	12	11				12
6	・動物の行動のしくみ		12	12	エネルギー編① ・光による現象 ・音による現象	・光の性質を学ぶ。 ・空気と水などの境界での光の進み方を学ぶ。 ・凸レンズによってできる像を学ぶ。 ・音の伝わり方を学ぶ。 ・音の振幅・振動数と聞こえる音の関係を学ぶ。	9	
7			9	1			9	
8			3	2	地球編① ・ゆれる大地 ・火をふく大地	・地震のゆれや特徴、ゆれが伝わるしくみを学ぶ。 ・火成岩のでき方を学ぶ。	12	
9	物質編① ・いろいろな物質とその性質	・金属、非金属や有機物、無機物の分類を学ぶ。 ・密度について学ぶ。	12	3			9	

備考

教科名	音楽	科目名	音楽	単位数	1
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ② 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。 ③ 多様な音楽に興味・関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。				
学習方法	① 腹式呼吸による豊かで自然な発声を身に付ける。 ② アルトリコーダー、クラシックギターの基本奏法を学ぶ。 ③ 楽典の基礎を学び、視唱(奏)力を付ける。 ④ 発想記号、強弱・作品の時代背景、曲のスタイルなど、作品についてより深く理解、鑑賞、表現出来るようにする。				
教科書 教材等	中学生の音楽1(教育芸術社), 中学生の器楽(教育芸術社)ほか				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「We'll Find The Way」 「パフ」 「朝の風に」 「学園歌」	<ul style="list-style-type: none"> 腹式呼吸を基本とした豊かな歌唱力をつける。 基本的な発声法を身に付け、自分のもつイメージ・感情をのびのびと楽しく表現出来るようにする。 	3	10	「かっこう」 「聖者の行進」 「オーラ・リー」	<ul style="list-style-type: none"> Aリコーダーによる独奏・合奏を通して、リコーダーの基本を身に付け正確な演奏が出来るようにする。 	4
5	ビンゴでリズム楽語ゲーム 「愛のロマンス」 「エーデルワイス」 「マルセリーノの歌」	<ul style="list-style-type: none"> ゲームを通して、楽典の基礎知識を身に付ける。 ギターによる独奏・合奏を通して、ギターの基本奏法や基本知識を身に付け、正確な演奏が出来るようにする。 	4	11	郷土の音楽 「魔王」「春」 「サウンドオブミュージック」	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通して、歴史・文化・風土を含め、より深く作品について理解出来るようにする。 	4
6			4	12			3
7			3	1	「マイバラード」 「夢の世界へ」 「ふるさと」 「卒業式関連唱歌」	<ul style="list-style-type: none"> 調和した和声を目指す2～3部合唱を行う。 	3
8	「かっこう」 「聖者の行進」 「オーラ・リー」	<ul style="list-style-type: none"> Aリコーダーによる独奏・合奏を通して、リコーダーの基本を身に付け正確な演奏が出来るようにする。 	1	2			4
9			4	3			3

備考： 曲目は変更される場合があります。

教科名	美術	科目名	美術	単位数	1
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 美術に対する親しみと興味を育てる。 ② 自分の感性を大切に、自信を持って制作に臨む。 ③ 中学校で学ぶ美術の導入として、基本的な技術を習得する。				
評価の観点 評価方法	① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度) ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。(発想や構想の能力) ③ 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。(創造的な技能)				
学習方法	① 個人制作と、一斉授業。				
教科書・教材等	美術1(日文)、美術資料(秀学社) 水彩用具、スケッチブック、美術資料、など				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	鉛筆で静物、風景、人物を描く。	対象をよく観察して形、明暗、量感、質感などを描写する。		10	水彩で静物、風景を描く。 * 9月の内容の継続	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。	
5				11	シナ材の板からお面を彫刻刀を使って彫る。	能面、伎楽面などを参考にしながら想像力を働かせ、自分らしい表現ができたか、最後まで仕上げることができたかどうかをみていく。	
6				12			
7	自然物をもとに、創造的に構成する。	スケッチや資料をもとに、感じ取ったことや考えたことを、形や色彩で表現する。		1	鑑賞する。	美術作品の鑑賞を通して、生きることへの願いをよみとる。	
8				2	文字のデザイン	レタリングを実施する。	
9	水彩で静物、風景を描く。	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。		3			

備考

教科名	保健体育	分野名	保健体育	単位数	3
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践 ③ 教科書・資料を用いた学習				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材 中学校保健体育（大修館書店）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 運動やスポーツの多様性	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身につけ、組み合わせることができる。 運動やスポーツが多様であることについて理解できる。	9	10	武道（剣道）	技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。 相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開する。	12
5	陸上競技	記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身につける。 積極的に取り組むと共に、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、健康・安全に気を配ることができる。 特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、取り組み方を工夫できる。	12	11	器械運動(マット・跳び箱)	技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。 マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技で、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。	12
6			12	12	※心身の発達と心の健康	心身の機能の発達と心の健康について理解できる。	9
7	球技：ベースボール型 (ソフトボール)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる。 ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開する。	9	1	球技：ゴール型 (バスケットボール/サッカー)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる。 ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開する。	9
8	※調和のとれた生活	自身の生活を振り返り、健全な状態を保つ目標を立てる。	3	2	球技：ネット型 (バドミントン/卓球) ダンス（約4時間）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる。 ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 感じを込めて踊ったりみんなが踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができる。	12
9			12	3			9

備考 探究的な内容（地域×体育）を2学期以降実施する予定。

教科名	技術・家庭	分野名	技術分野	単位数	1
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 生活と技術についての基礎的に理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身に付けるようにする。 ② 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。 ③ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。				
評価の観点 評価方法	① 関心・意欲・態度・・・授業態度、作品提出物などで評価 ② 知識・理解・・・ノート、発表、レポート ③ 表現・思考・判断・・・授業への取り組み、発表、作品、提出物で判断				
学習方法	① 作品の製作・完成を通して学ぶ方針で、実習や作業を中心とする。また、教科書だけではなく、ICT機器等を利用して知識と技術を習得する。				
教科書・教材等	技術・家庭 技術分野 (教育図書株式会社) 技術分野ワークシート (教育図書株式会社)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<栽培> 栽培と私たちの生活 1. 作物の生育を調べよう 2. 生育の様子と栽培技術の基本を知ろう	身近な植物に興味を持つ。 栽培への意欲・関心を持つ。 栽培の知識を深める。	3	10	3. 製品に適した材料を選ぼう 4. 製品を丈夫で、使いやすいようにしよう 5. 加工、接合、仕上げの方法を調べよう	日常の製品に興味をもつ。	4
5	栽培と私たちの生活 3. 栽培計画をたてよう 4. 健康な作物を育てよう	栽培への意欲・関心を持つ。 野菜の種類、栽培法を知る。	4	11	6. 製品の構想をまとめ図に表そう。	製図や構想図を理解し、製図できる。	4
6	栽培と私たちの生活	栽培への意欲・関心を持つ。 栽培技術を身につける。	4	12	<製品の製作> 1. 制作の準備をしよう 2. けがきをしよう 3. 材料を切断しよう	木材加工に必要な道具を理解し、使用することができる。	3
7	栽培と私たちの生活	栽培への意欲・関心を持つ。 栽培技術を身につける。	3	1	4. 部品を正確に加工しよう	制作に応じた道具を使い分けられることができる。	3
8			1	2	5. 組み立てよう 6. 製品の構想をまとめ、図に表そう 7. 製品を長く使うための工夫をしよう	制作にあたって強度などを考え作業する。	4
9	<木材加工> 製品の設計 1. 身の回りの製品を調べよう 2. つくってみたい製品を考えよう	製品ができるまでの工程を理解する。	4	3	8. 仕上げ、塗装 9. オリジナル作品製図	制作への意欲・関心をもつ。 作業を通して、日常生活へ活かせるよう心がける。 強い構造を用いて、第三角法による製図を行う。	3

備考

教科名	技術・家庭	分野名	家庭分野	単位数	1		
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ② 家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…実技試験やワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考力・判断力・表現力…ワークシートなどをもとに評価する。 ③ 学びに向かう力…実習や実験への取り組み、振り返りをもとに評価する。						
学習方法	① 教室での一斉授業や実験・観察を通して内容を理解する。 ② 調理実習などの実習により、体験の中で実践的な態度を身につけていく。						
教科書・教材等	技術・家庭 家庭分野 (教育図書株式会社) 家庭分野ワークシート (教育図書株式会社)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	B 衣食住の生活 <第1章> 健康と食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割を理解する。 ・健康によい食習慣について理解する。 ・自分の食習慣をふり返り、課題を見つける。 	3	10		<ul style="list-style-type: none"> ・魚の種類や特徴を理解する。 ・野菜の種類や特徴がわかり、調理することができる。 調理実習：ホットケーキ 	4
5	<第2章> 何をどれだけ食べたらよいか	<ul style="list-style-type: none"> ・食品に含まれる栄養素の種類を理解する。 ・それぞれの栄養素の働きを理解する。 ・食品成分表で、食品に含まれる栄養素などの量を調べることができる。 ・食品を6つの基礎食品群に分類することができる。 	4	11		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域で取れる食材や、地域の食文化について理解する。 ・地域でとれた食材を利用することの意味を考えることができる。 	4
6		<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の一日に必要な食品の種類や概量を理解する。 ・食品群別摂取量のめやすを活用し、食事を見直すことができる。 ・中学生の一日分の献立を考えることができる。 調理実習：白玉団子 	4	12		<ul style="list-style-type: none"> ・だしの基本的な材料と、だしのとり方を理解する。 ・地域または季節の食材を用いた和食の調理をすることができる。 調理実習：みそ汁 	3
7	<第3章> 調理と食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の品質を、見た目や表示などから見分けることができる。 ・用途に応じた適切な食品の選択ができる。 ・食品の適切な保存方法を理解する。 ・食中毒の原因を理解し、予防について考えることができる。 	3	1	B 衣食住の生活 <第6章> 私たちの住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの基本的な働きを理解する。 ・生活行為と住まいの空間の関係について考える。 ・家族にはそれぞれ住まい方への思いや願いがあることに気づく。 ・家族が気持ちよく住むための工夫を考えることができる。 	3
8		<ul style="list-style-type: none"> ・食材や調理器具を安全で衛生的に取り扱うことができる。 	1	2		<ul style="list-style-type: none"> ・室内の空気を清潔に保つ必要があることを理解する。 ・健康を守る室内環境の整え方を考える。 ・住まいの中には危険がたくさんあることを理解する。 ・家庭内事故を防ぐための工夫や対策を考える。 	4
9		<ul style="list-style-type: none"> ・日常食の調理の計画を立てることができる。 ・肉の種類や特徴を理解する。 ・肉の調理上の特徴がわかり、調理することができる。 調理実習：ぶた肉のしょうが焼き 	4	3		<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に備えた安全な住まいの整え方を理解する。 ・自然災害への備え・対策を考える。 調理実習：オープンサンド 	3

教科名	外国語	科目名	英語	単位数	6
対象	中学1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 ② 英語を話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを表現することができるようにする。 ③ 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解することができるようにする。 ④ 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを文章にすることができるようにする。				
評価の観点 評価方法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用できているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）				
学習方法	① 予習で新出単語の意味を確認し、本文の概要を理解する。 ② 教科書の本文の内容を理解する上で必要な文法事項、語法を学習する。 ③ 本文の内容を理解した上で、一斉音読やペアリーディング等を繰り返し行う。				
教科書・教材等	教科書 NEW TREASURE STAGE1 (Z会) 副教材 NEW TREASURE STAGE1 文法問題集(Z会)、 NEW CROWN 1(三省堂)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	Let's start!	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス アルファベット、身の回りの単語、あいさつなど 	18	10	Lesson 7	<ul style="list-style-type: none"> 「今している」ことについて説明したり、たずねたりする 「今している」動作と「習慣的な動作」を区別する 	24
	Lesson 1	<ul style="list-style-type: none"> be動詞の文1 I am (You are)～ This(That) is～ 否定文/疑問文 			<ul style="list-style-type: none"> 現在進行形 現在進行形の文 否定文/疑問文 現在形と進行形 		
5	Lesson 2	<ul style="list-style-type: none"> be動詞の文2 He (She) is～. What is～?/形容詞 Who is～?/AorB 形容詞（限定用法・叙述用法） 	24	11	Lesson 8	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の過去形 過去の出来事や経験について話したり、たずねたりする 	24
	Lesson 3	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の文1 否定文/疑問文 What do you…? 名詞の複数形 冠詞 These/Those 代名詞の目的格 			<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の過去形（規則動詞） 否定文/疑問文 一般動詞の過去形（不規則動詞） 		
6	フォニックス	Lesson 4	24	12	Lesson 9	<ul style="list-style-type: none"> be動詞の過去形 be動詞の過去形の文 過去進行形 特別用法のit 	18
		Lesson 3			<ul style="list-style-type: none"> 過去の状態や、過去にしていた動作について伝える 時間や天気について話す 	<ul style="list-style-type: none"> 未来を表す表現 be going toを用いた文 否定文/疑問文 How…?/Why…? willを用いた文 must/may 	
7	フォニックス	Lesson 4	18	1	Lesson 10	<ul style="list-style-type: none"> これから予定や、これから起こることについて伝える 相手に許可を求めたり、指示を伝えたりする 方法や理由をたずねる 	18
		be動詞の文と一般動詞の文の違いを理解して肯定文・否定文・疑問文が使える			<ul style="list-style-type: none"> There is(are)～の文 There isの文 否定文・疑問文 数や量の多少を表す表現 		
8	フォニックス	Lesson 5	6	2	Lesson 11	<ul style="list-style-type: none"> どこに何があるか、どれくらいの量あるか説明する ものの量を具体的に表現する 	24
		Lesson 6			<ul style="list-style-type: none"> 比較表現 原級を用いた比較 比較級を用いた比較 最上級を用いた比較 疑問詞を用いた比較表現 		
9	フォニックス	Lesson 6	24	3	Lesson 12	<ul style="list-style-type: none"> like A better than B like A the best 	18

備考 適宜 NEW CROWN 1を使用する。